

第8回「トラックの森」づくり 植樹式について（9月19日）

「トラックの森」について

全日本トラック協会では、業界の地球温暖化対策の一環として、平成15年度から「トラックの森」づくり事業を推進しています。本事業は、わが国の森林保護育成を図ることで、地球温暖化の大きな要因となるCO₂の削減に寄与するとともに、このようなトラック運送業界の環境に対する取り組みを広く社会にPRするものです。

「トラックの森」は、国有林を中心に「トラックの森」としてフィールドを設置し、地域のボランティアなどの協力を得ながら、トラック運送事業者及びその関係者が、植樹をはじめ下草刈り、枝打ち、間伐などを行い、長期間にわたり森を育てていくものです。

なお、「トラックの森」づくり植樹式は、毎年「全国トラック運送事業者大会」に合わせて実施されており、今回8ヵ所目の「トラックの森」が設置されました。また、このような「トラックの森」づくり事業は都道府県トラック協会単位でも行われており、全国42ヵ所に「トラックの森」が誕生しています。

第8回「トラックの森」づくり 植樹式について

9月19日、神奈川県横須賀市の湘南国際村めぐりの森で、「トラックの森」づくり事業の第8回植樹式を行いました。植樹式には、環境問題対策委員長の原重則副会長をはじめ協会会員ら約100名が参加。0.05haの土地にアラカシ、スダジイ、タブノキなど22種、1,500本を植樹しました。

植樹式概要は[こちら](#)。



